

看護学部の教育目標（2019年度入学の22回生まで）

看護はあらゆる健康のレベルにある人々を対象とし、それらの人々の健康レベルの向上を目指して援助を行うものであり、この援助活動は、人々の生活を尊重し、人間理解に根ざした関係を基盤として、継続的に行われるものである。

看護は人間としてさけられない「生・老・病・死」とかかわりをもちながら、対象者との密接な人間関係を通して行われていくものである。したがって、看護者には豊かな人間性と科学的思考に支えられた創造的・主体的行動が求められる。

本学部は以下の教育目標を掲げる。

1. 豊かな人間性を養い、生活者としての人間を理解する基礎能力を養う。
2. 看護実践に必要な科学的思考および看護の基本技術を身につけ、人間関係を基盤として、健康問題を解決する能力を養う。
3. 社会情勢の変化に応じて、保健・医療・福祉チームの中で主体的かつ協調的に看護の役割を果たすとともに、現状を変革する基礎能力を養う。
4. 研究の基礎能力を養う。
5. 専門職者として自己の能力を評価し、自己成長のできる基盤を養う。
6. 国際的な視野に立って活動できる基礎能力を養う。

第1学年教育目標

1. 人間生活と健康との関りを、地域住民の生活や自身の生活を通して理解する。
2. 人間理解の基礎となる知識、および看護活動の基礎となる知識・技術を学ぶ。
3. 自主性を養い、主体的な学習態度の基礎を確立する。
4. 感性を磨き、人間関係の基本を学ぶ。

第2学年教育目標

1. 人間の健康状態を包括的にとらえる基礎的な知識を学ぶ。
2. さまざまな発達段階や健康レベルに応じて、人々の生活を援助する理論および方法を理解する。
3. 自主性を発揮し、他者との関わりから学び、自己成長を目指す。
4. 看護の基礎的な理論および技術を習得し、疾病を持つ人への看護を実践する。

第3学年教育目標

1. これまでに学んだ知識・技術を活用し、あらゆる健康状態にある人との関わりの中で、よりよい看護を探求する。
2. さまざまな対象者への看護を実践する中で、自己の看護観を深める。
3. 主体的な学習態度を基盤として、他者と共に学ぶ能力を持つ。
4. 研究の基礎的知識・態度を学ぶ。

第 4 学年教育目標

1. 広範な知識を統合し、プロフェッショナルとしての自己の方向性を明らかにする。
2. 4年間の学習を総括し、さらなる発展にそなえる。